(19)日本国特許庁(JP)　(12)登録実用新案公報(U)　(11)実用新案登録番号
実用新案登録第3127600号
(U3127600)
(45)発行日　平成18年12月7日(2006.12.7)　(24)登録日　平成18年11月15日(2006.11.15)

(51)Int.Cl.　F I
B62J 1/00 (2006.01)　B62J 1/00 A

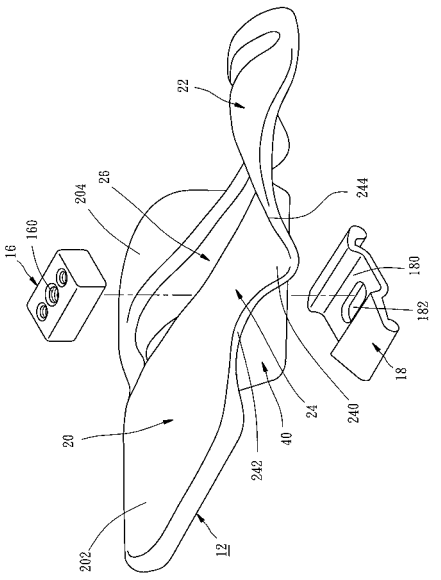
評価書の請求 未請求　請求項の数 18　ＯＬ　（全 9 頁）

(21)出願番号　実願2006-7823(U2006-7823)
(22)出願日　平成18年9月26日(2006.9.26)
(31)優先権主張番号　095203867
(32)優先日　平成18年3月8日(2006.3.8)
(33)優先権主張国　台湾(TW)
(31)優先権主張番号　095127043
(32)優先日　平成18年7月24日(2006.7.24)
(33)優先権主張国　台湾(TW)

(73)実用新案権者　506107829
趙國志
台灣　台中縣大甲鎮横▲しん▼街５１號
(73)実用新案権者　506107830
陳嘉濱
台灣　台中縣大甲鎮横▲しん▼街５１號
(74)代理人　100093779
弁理士　服部　雅紀
(72)考案者　趙　國志
台湾台中県大甲鎮横▲川▼街５１号
(72)考案者　陳　嘉濱
台湾台中県大甲鎮横▲川▼街５１号

(54)【考案の名称】自転車サドルの構造

(57)【要約】
【課題】騎乗者の陰部に与える圧力を完全に解消可能な自転車サドルの構造を提供する。
【解決手段】サドル本体１２を有し、サドル本体１２は騎乗者の臀部を支持可能な広い支持部２０と、騎乗者の股間を跨らせるのに用いる狭い前端延伸部２２と、両者の間に位置する湾曲凹部２４とを有する。本体１２は広い支持部２０に最高部位、湾曲凹部２４に最低部位を有するため、湾曲凹部２４の上方に深さが十分な開放空間を形成することが可能である。従って騎乗中に騎乗者の陰部を開放空間に快適に収容することによりその部位が受けた圧力を完全に解消し、その部位に溜まった熱を発散することが可能となる。
【選択図】図２



【実用新案登録請求の範囲】
【請求項１】
サドル本体を有する自転車サドルの構造であって、
サドル本体は、騎乗者の臀部を支持可能な広い支持部と、騎乗者の股間を跨らせるのに用いる狭い前端延伸部と、両者の間に位置する湾曲凹部とを有し、
サドル本体は広い支持部に位置する最高部位と湾曲凹部に位置する最低部位とを有し、前記最高部位及び前記最低部位の二つの部位により湾曲凹部の上方に深さが十分な開放空間を形成することが可能であり、騎乗中に騎乗者の陰部を開放空間に快適に収容することによりその部位が受けた圧力を完全に解消し、その部位に溜まった熱を発散可能なことを特徴とする自転車サドルの構造。
【請求項２】
最高部位と最低部位との差は３０ｍｍから６０ｍｍの間であることを特徴とする請求項１に記載の自転車サドルの構造。
【請求項３】
広い支持部は支持板を有し、最高部位は支持板の上に位置付けられることを特徴とする請求項１に記載の自転車サドルの構造。
【請求項４】
支持板は別々にサドル本体の中心軸両側に少々陥凹している一対の凹面を有することにより、騎乗者の臀部を支持部上に密着させることが可能であることを特徴とする請求項３に記載の自転車サドルの構造。
【請求項５】
湾曲凹部は最低部位を上に位置させる基底と、最低部位から最高部位へ徐々に上昇していく第一傾斜部位と、最低部位から狭い前端延伸部へ徐々に上昇していく第二傾斜部位とを有することにより、湾曲凹部の上方に深さが十分な弧状の開放空間を形成することが可能であることを特徴とする請求項１に記載の自転車サドルの構造。
【請求項６】
第一傾斜部位は第二傾斜部位より長いことを特徴とする請求項５に記載の自転車サドルの構造。
【請求項７】
湾曲凹部は対称的に下向きに延伸され、かつ騎乗者の股間を快適に跨らせるのに用いられる一対の側辺を有することを特徴とする請求項５に記載の自転車サドルの構造。
【請求項８】
サドル本体は上側に中心軸に沿い延伸される通気道を有することを特徴とする請求項１に記載の自転車サドルの構造。
【請求項９】
サドル本体の底面から下向きに延伸され、かつ断面がＵ型を呈する接合固定部を有することを特徴とする請求項１に記載の自転車サドルの構造。
【請求項１０】
接合固定部は矩形開口と、矩形開口の長い側辺に沿い下向きに延伸される二つの側壁と、底壁とを有することを特徴とする請求項９に記載の自転車サドルの構造。
【請求項１１】
接合固定部はさらに前壁、後開口、後方補強縁部、及び細長い孔を有する底壁を有することを特徴とする請求項１０に記載の自転車サドルの構造。
【請求項１２】
それぞれの側壁は短い前側辺と長い後側辺とを有することを特徴とする請求項１０に記載の自転車サドルの構造。
【請求項１３】
それぞれの側壁の長い後側辺に陥凹部を別々に設けることによりそれぞれの側壁に緩衝・振動吸収機能を与えることを特徴とする請求項１２に記載の自転車サドルの構造。
【請求項１４】

接合固定部に合わせてサドル本体を自転車のサドルポストに接合固定するのに用いられる接合固定装置を有することを特徴とする請求項９に記載の自転車サドルの構造。

【請求項１５】

接合固定装置は上方接合固定ユニットと下方接合固定ユニットとを有し、サドル本体の接合固定部は上方接合固定ユニット及び下方接合固定ユニットに合わせてサドル本体を自転車のサドルポストに固定するのに用いる下端部位を形成することを特徴とする請求項１４に記載の自転車サドルの構造。

【請求項１６】

上方接合固定ユニットはねじ孔を有し、下方接合固定ユニットは中央貫通部と長孔とを有することを特徴とする請求項１５に記載の自転車サドルの構造。

【請求項１７】

上方接合固定ユニットは縦方向に沿う槽と長孔とを有し、

下方接合固定ユニットは中央貫通部と長孔とを有し、

接合固定装置は長いナットを有し、

取り付ける場合、長いナットを縦方向に沿う槽内に配置し、外部のボルトで締め付けることを特徴とする請求項１５に記載の自転車サドルの構造。

【請求項１８】

上方接合固定ユニットは二つの横方向に沿う槽と長孔とを有し、

下方接合固定ユニットは中央貫通部と長孔とを有し、

接合固定装置は短いナットを少なくとも一つ有し、

取り付ける場合、短いナットを横方向に沿う槽内に配置し、外部のボルトで締め付けることを特徴とする請求項１５に記載の自転車サドルの構造。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本考案は自転車サドル、詳しく言えば陰部位を収容する開放空間を有し、その部位が受けた圧力を緩和し、その部位が生じた熱を発散可能な自転車サドルの構造に関するものである。

【背景技術】

【０００２】

周知の自転車サドルは狭い前端延伸部と広い後端部とを有し、その側面は水平状を呈する。このような自転車サドルの前端延伸部は騎乗者の陰部に圧力を与え、その部位の血管と神経とを圧迫し、痛みまたは傷害を生じることがある。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【０００３】

本考案の主な目的は騎乗者の陰部に与える圧力を完全に解消可能な自転車サドルの構造を提供することである。

本考案のもう一つの目的は通気機能を有することにより騎乗の際に騎乗者の陰部に溜まった熱を解消可能な自転車サドルの構造を提供する。

【課題を解決するための手段】

【０００４】

上述の目的を達成するために、本考案による自転車サドルの構造はサドル本体を有し、サドル本体は騎乗者の臀部を支持可能な広い支持部と、騎乗者の股間を跨らせるのに用いる狭い前端延伸部と、両者の間に位置する湾曲凹部とを有する。本体は広い支持部に最高部位、湾曲凹部に最低部位を有するため、湾曲凹部の上方に深さが十分な開放空間を形成可能である。従って騎乗中に騎乗者の陰部を開放空間に快適に収容することによりその部位が受けた圧力を完全に解消し、その部位に溜まった熱を完全に発散可能となる。

【０００５】

本考案による自転車サドルの構造は、本体の広い支持部は支持板を有し、最高部位は支

持板の上に位置付けられてもよい。

湾曲凹部は最低部位をその上に位置させる基底と、最低部位から支持板へ徐々に上昇していく第一傾斜部位と、最低部位から狭い前端延伸部へ徐々に上昇していく第二傾斜部位とを有するため、湾曲凹部の上方に深さが十分な弧状の開放空間を形成することが可能である。

【０００６】

本考案による自転車サドルの構造は、サドル本体は接合固定部を有し、接合固定部は断面がＵ型を呈し、サドル本体の底面から下へ延伸されてもよい。自転車サドルの構造はさらに接合固定装置を有し、接合固定装置は接合固定部に合わせてサドル本体を自転車のサドルポストに固定してもよい。

本考案による自転車サドルの構造は、接合固定装置は上方接合固定ユニットと下方接合固定ユニットとを有することが可能であり、接合固定部は上下方の接合固定ユニットに合わせてサドル本体を自転車のサドルポストに固定するのに用いる下端部位を形成することが可能である。

【考案を実施するための最良の形態】

【０００７】

以下、実施例と図面に基づいて本考案を説明する。まず図面の説明は下記の通りである。

図１は本考案の第一実施例による自転車サドルの構造において、サドル本体をサドルポストに接合固定した状態を示す斜視図である。

図２は本考案の第一実施例による自転車サドルの構造を示す分解斜視図である。

【０００８】

図３は本考案の第一実施例による自転車サドルの構造を示す平面図である。

図４は本考案の第一実施例による自転車サドルの構造を示す側面図である。

図５は本考案の第一実施例による自転車サドルの構造を示す平面図である。

図６は図５の６‐６線に沿った断面図である。

図７は図６の７‐７線に沿った断面図である。

【０００９】

図８は図６の８‐８線に沿った断面図である。

図９は本考案の第一実施例による自転車サドルの構造におけるサドル本体と騎乗の際の騎乗者の陰部との関係位置を示す模式図である。

図１０は本考案の第二実施例による自転車サドルの構造おけるサドル本体の側面図である。

図１１は図３の１１‐１１線に沿った断面図である。

図１２は図４の１２‐１２線に沿った断面図である。

図１３は本考案の第三実施例による自転車サドルの構造を示す分解斜視図である。

図１４は本考案の第四実施例による自転車サドルの構造を示す分解斜視図である。

【００１０】

図１から図９と図１１及び図１２に示すのは本考案の第一実施例による自転車サドルの構造１０である。自転車サドルの構造１０はサドル本体１２と接合固定装置１４とを有する。サドル本体１２は騎乗者の臀部を支持可能な広い支持部２０と、騎乗者の股間を跨らせるのに用いる狭い前端延伸部２２と、前述両者の間に位置する湾曲凹部２４とを有する。

【００１１】

広い支持部２０は板状を呈し、かつ別々にサドル本体１２の中心軸両側に少々陥凹している一対の凹面２０２、２０４を有する。これにより図８に示すように騎乗者の臀部を支持部２０上に密着させることが可能である。

湾曲凹部２４は基底２４０と、基底２４０から支持部２０の一端へ徐々に上昇していく第一傾斜部位２４２と、基底２４０から前端延伸部２２の一端へ徐々に上昇していく第二傾斜部位２４４とを有する。本実施例では、第一傾斜部位２４２は第二傾斜部位２４４よ

り長い。また湾曲凹部２４は図７に示すように対称的に下向きに延伸され、かつ騎乗者の股間を快適に跨らせるのに用いられる一対の側辺２４６を有する。

【００１２】

サドル本体１２は支持部２０に位置する最高部位Ｈと、基底２４０に位置する最低部位Ｌとを有し、最高部位Ｈと最低部位Ｌとの差は３０ｍｍから６０ｍｍの間である。これにより図９に示すように湾曲凹部２４の上方に深さが十分な弧状の開放空間３０を形成し、騎乗者の陰部を収容することが可能である。また本実施例では、サドル本体１２は上側に中心軸に沿い延伸される通気道２６を有する。

【００１３】

サドル本体１２は底面から下向きに延伸し、断面がＵ型を呈する接合固定部４０を形成する。本実施例では、接合固定部４０は矩形開口４００、矩形開口４００の二つの長い側辺に沿い下向きに延伸される二つの側壁４０２、前壁４０６、後開口４０８、後方補強縁部４０９、及び細長孔４１２を有する底壁４１０を有する。

本実施例では、底壁４１０は水平面に平行するため、側壁４０２は短い前側辺４１４と長い後側辺４１６とを有する。図１０に示すように本考案の第二実施例では側壁４０２’の長い後側辺４１６’に陥凹部４１８’を設けることにより側壁４０２’に振動吸収機能を与える。

【００１４】

接合固定装置１４はサドル本体１２の接合固定部４０に合わせて前後移動によりサドル本体１２を自転車のサドルポスト１上に接合固定するのに用いられる。図２に示すように接合固定装置１４はねじ孔１６０を有する上方接合固定ユニット１６と、中央貫通部１８０と長孔１８２とを有する下方接合固定ユニット１８と、を有する。取り付ける場合、上方接合固定ユニット１６は矩形孔４００から接合固定部４０に入り込み、かつ底壁４１０の上側面に密接する。下方接合固定ユニット１８は底壁４１０の下側面に密接することにより接合固定部４０の下端部位を中央貫通部１８０に収容する。図１１と図１２に示すように本実施例は下方接合固定ユニット１８に合わせて周知の連接ユニット２をサドルポスト１の上端に配置し、ボルト３をサドルポスト１の孔と下方接合固定ユニット１８の長孔１８２とから貫通させ、上方接合固定ユニット１６のねじ孔１６０に締める。これによりサドル本体１２をサドルポスト１上に接合固定することが可能である。

【００１５】

図１３と図１４に示すのは本考案の第三実施例及び第四実施例である。第三実施例及び第四実施例では、接合固定装置５０は上方接合固定ユニット５２と下方接合固定ユニット５４を有する。下方接合固定ユニット５４は前述の実施例と同じであり、上方接合固定ユニット５２は一つの縦方向に沿う槽５２０、二つの横方向に沿う槽５２４と長孔５２２を有する。取り付ける場合、第三実施例においては、二つの短いナット５６を横方向に沿う槽５２４内に別々に配置し、第四実施例では、長いナット５８を縦方向に沿う槽５２０内に配置し、いずれもそののちボルトで締め付ける。

【図面の簡単な説明】

【００１６】

【図１】本考案の第一実施例による自転車サドルの構造において、サドル本体をサドルポストに接合固定した状態を示す斜視図である。

【図２】本考案の第一実施例による自転車サドルの構造を示す分解斜視図である。

【図３】本考案の第一実施例による自転車サドルの構造を示す平面図である。

【図４】本考案の第一実施例による自転車サドルの構造を示す側面図である。

【図５】本考案の第一実施例による自転車サドルの構造を示す平面図である。

【図６】図５の６－６線に沿った断面図である。

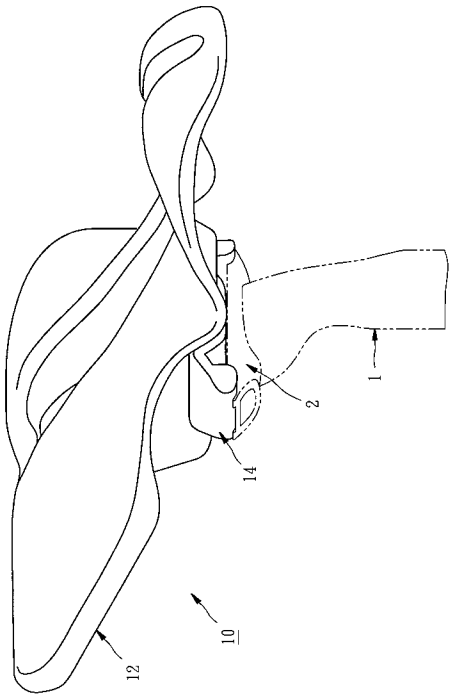
【図７】図６の７－７線に沿った断面図である。

【図８】図６の８－８線に沿った断面図である。

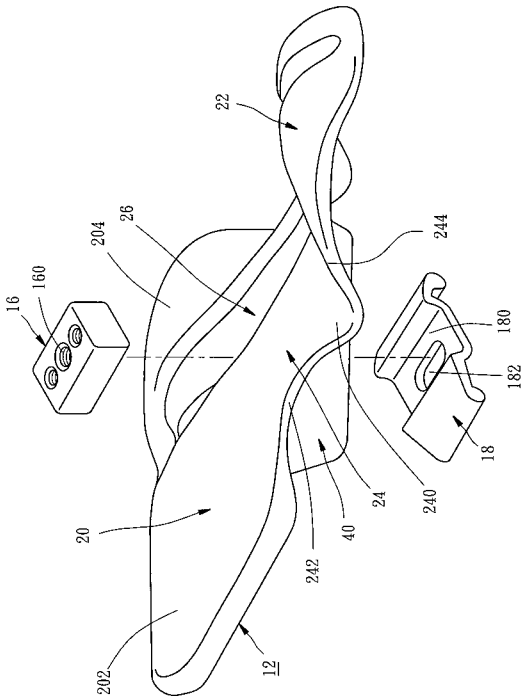
【図９】本考案の第一実施例による自転車サドルの構造におけるサドル本体と騎乗の際の騎乗者の陰部との関係位置を示す模式図である。

【図１０】本考案の第二実施例による自転車サドルの構造おけるサドル本体の側面図である。
【図１１】図３の１１－１１線に沿った断面図である。
【図１２】図４の１２－１２線に沿った断面図である。
【図１３】本考案の第三実施例による自転車サドルの構造を示す分解斜視図である。
【図１４】本考案の第四実施例による自転車サドルの構造を示す分解斜視図である。
【符号の説明】
【００１７】
１０　自転車サドルの構造、１２　サドル本体、２０　支持部、２２　前端延伸部、２４　湾曲凹部、Ｈ　最高部位、Ｌ　最低部位、３０　開放空間

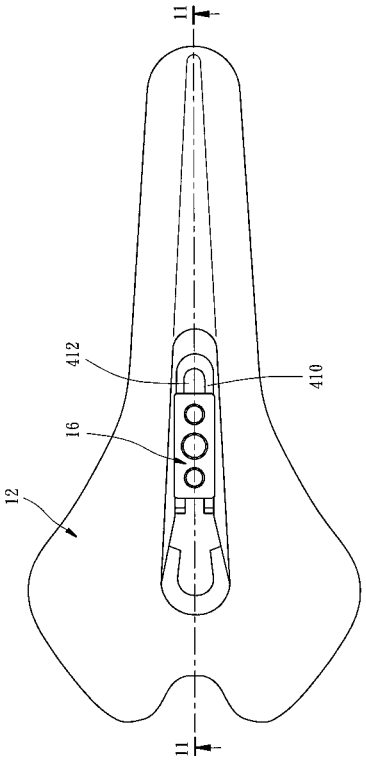
【図１】



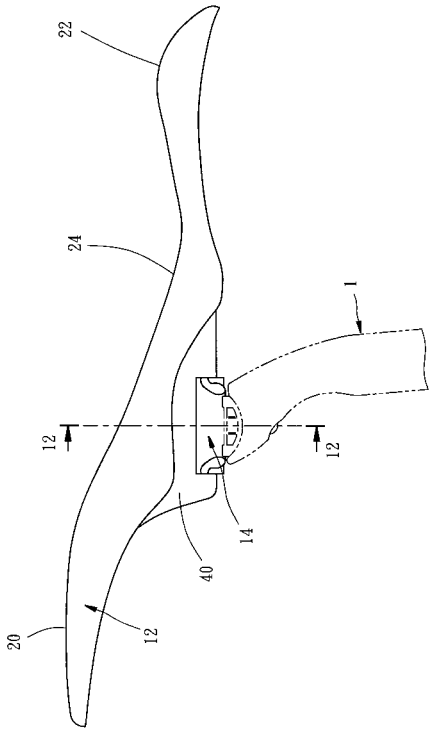
【図２】



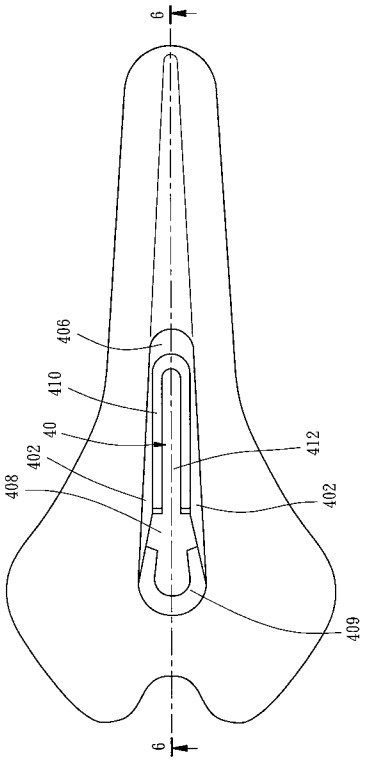
【図３】


11
412
410
16
12
11

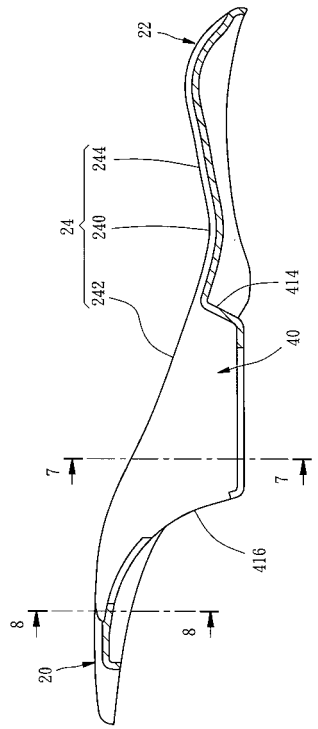
【図４】


22
24
1
12
12
14
40
20
12

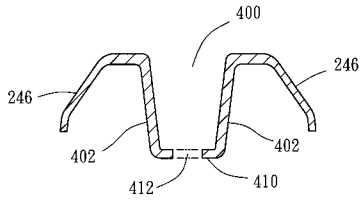
【図５】


6
406
410
40
402
408
412
402
409
6

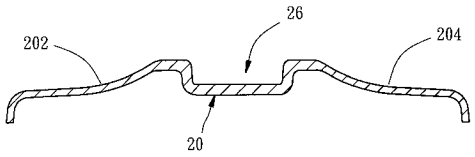
【図６】


22
244
24
240
242
414
40
7
7
416
8
8
20

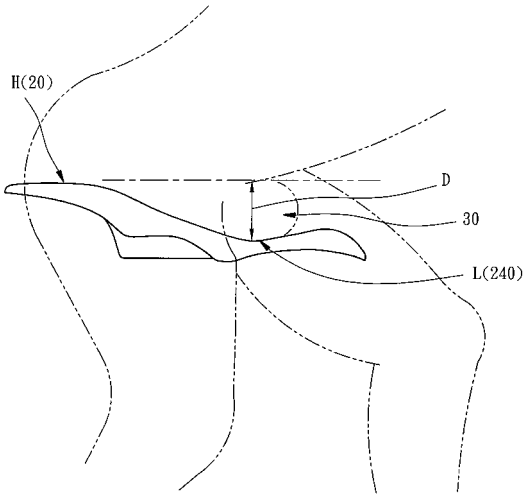
【図７】



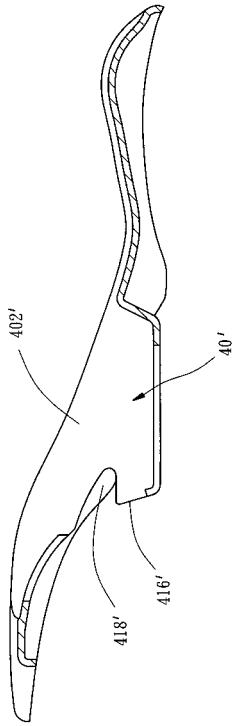
【図８】



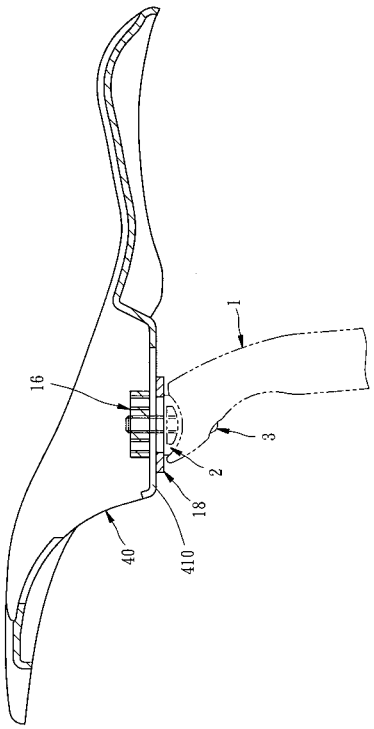
【図９】



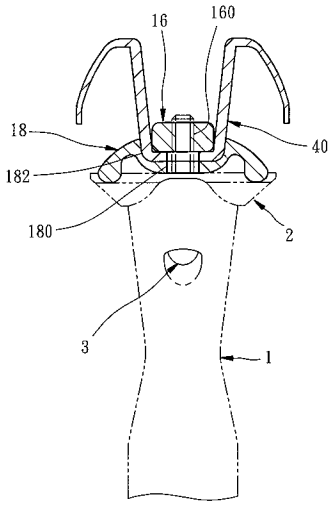
【図１０】



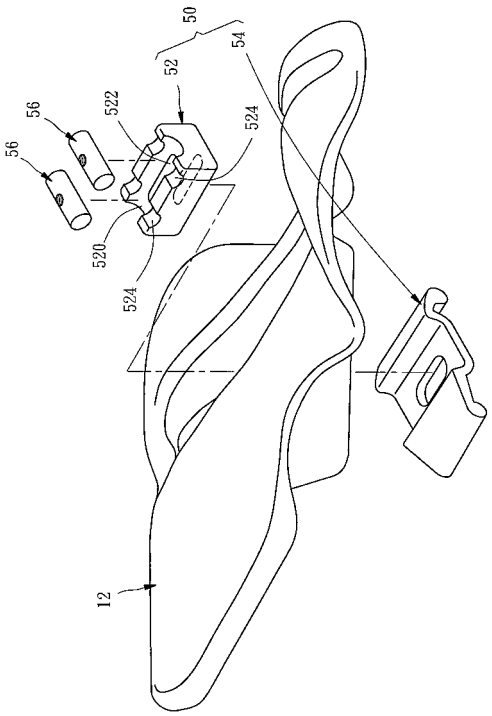
【図１１】



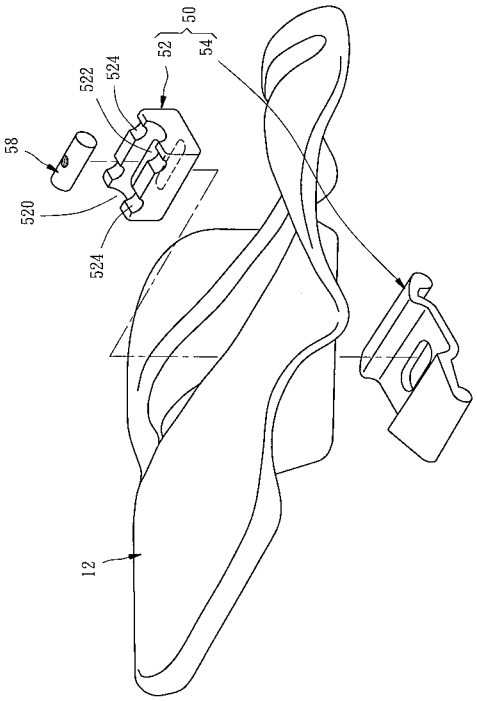
【図１２】


16
160
18
40
182
180
2
3
1

【図１３】


50
54
52
56
522
524
56
520
524
12

【図１４】


50
52
54
522
524
58
520
524
12